

No.

2023 年度 英語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	論理・表現 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次・一般コース
使用教材	教科書 Genius English Logic and Expression I 参考書 Genius総合英語						

目標	<p>1. 英語で「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。</p> <p>2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数2800語以上を目指す。</p>
----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ 3	<ul style="list-style-type: none"> 論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 日常的话题や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合おうとしている。
	ステップ 2	<ul style="list-style-type: none"> 相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる形式や表現を理解している。 日常的话题や社会的な話題について、自分の意見や考えを的確に伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合おうとしている。
	ステップ 1	<ul style="list-style-type: none"> 相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる基本的な形式や表現を理解している。 日常的话题について、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的话题について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、課題テスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

<p>授業では主に1時間目はUnitで出てくる文法事項の学習、2時間目は1時間目で学習したことを用いた言語活動を行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。</p>

担当者より

<p>授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、復習をすること。</p>
--

学習計画

月	単元名	予定時数	学習の内容とねらい	実施時数
4	Unit 1 Introducing Yourself	5	文型SV, SVC, SVO, there 構文等の言語材料を用いて、英語で自己紹介をすることができる。	
	Unit 2 Talking about a Family Member or Friend		文型SVOO, SVOC等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて家族や友人の紹介を書くことができる。	
5	Unit 3 Talking about Your School	4	現在形, 現在進行形, 過去形, 過去進行形等の言語材料を用いて、海外の生徒に向けて自分たちの学校生活を紹介する原稿を書くことができる。	
	Unit 4 Making Plans for the Weekend (前期中間試験Ⅰ)		未来を表す表現等の言語材料を用いて、クラスメートとハイキングの計画について意見交換することができる。	
	Unit 5 Sharing Experiences		現在完了形, 現在完了進行形, 過去完了形等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて自分の大切にしている物を紹介することができる。	
6	Unit 6 Learning Your Way around at School	4	助動詞 (can, may, must, will, should, ought to)等の言語材料を用いて、海外の生徒に向けて学校のルールの説明を書くことができる。	
	Unit 7 Looking Back (前期中間試験Ⅱ)		助動詞 (used to, would, had better, 〈助動詞+have+過去分詞〉)等の言語材料を用いて、中学の後輩に向けてアドバイスすることができる。	
7	Unit 8 Recommending the Perfect Place to Go	4	受動態等の言語材料を用いて、観光客に向けて自分のおすすめする場所を案内する文を書くことができる。	
	Unit 9 Staying Healthy (夏期課題テスト)		不定詞(名詞的用法, 形容詞的用法, 副詞的用法, 否定, 意味上の主語, in order to, so as to)等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて高校生が抱える健康問題の解消策を提言することができる。	
	Unit 10 Thinking about Your Future		不定詞(〈SVO+to不定詞〉, 〈SVO+原形不定詞〉, 〈疑問詞+to不定詞〉, 〈seem [appear]+to不定詞〉)等の言語材料を用いて、クラスメートと進路について意見交換することができる。	
9	Unit 11 Japanese Educational Practices	5	動名詞等の言語材料を用いて、クラスメートと日本の学校習慣に対する賛否について意見交換することができる。	
	Unit 12 School Events (前期期末試験)		分詞等の言語材料を用いて、海外の友人に向けて学校行事について報告するメールを書くことができる。	
10	Unit 13 Better Choices	7	比較表現等の言語材料を用いて、クラスメートと最適な交通手段について意見交換することができる。	
	Unit 14 A Person You Look up To		関係代名詞等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて尊敬する人を紹介する文章を書くことができる。	
	Unit 15 Extracurricular Activities		関係副詞等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて参加したボランティア活動あるいは職場体験について報告することができる。	
11	Unit 16 What Can We Do to Save Resources?	6	仮定法過去等の言語材料を用いて、クラスメートと水不足あるいはフードロスについて意見交換することができる。	
	Unit 17 What If It Had Never Happened? (後期中間試験)		仮定法過去完了等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて過去にあった印象的な出来事について話すことができる。	
12	Unit 18 How Can We Protect the Earth? (冬期課題テスト)	3	接続詞(等位接続詞, 名詞節を導く接続詞)等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて環境問題についての考えを述べる文章を書くことができる。	
	Unit 19 Can Technology Make the World a Better Place?		接続詞(時を表す接続詞, 理由・原因を表す接続詞, 結果・程度を表す接続詞, 目的を表す接続詞, 条件を表す接続詞, 譲歩を表す接続詞)等の言語材料を用いて、クラスメートと科学技術の発達の是非について意見交換することができる。	
2	Unit 20 What Do You Like about Japanese Culture? (後期期末試験)	7	名詞構文・無生物主語等の言語材料を用いて、日本について知りたい人に向けて日本文化を紹介する記事を書くことができる。	
	合計時数		63	